

2025年12月15日

各 位

持田製薬株式会社
Duchesnay Inc.

妊娠時の悪心・嘔吐治療剤「Bonjesta」の 日本国内における開発および販売に関する契約締結のお知らせ

持田製薬株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：持田 直幸、以下「持田製薬」）と Duchesnay Inc.（本社：カナダ・ケベック州、President : Éric Gervais、以下「Duchesnay 社」）は、Duchesnay 社が開発した妊娠時の悪心・嘔吐治療剤「Bonjesta」（以下「本剤」）の日本国内における開発および販売に関する契約を締結しましたのでお知らせいたします。本契約に基づき、持田製薬は日本での製造販売承認取得に向けた本剤の開発を行います。

妊娠初期における悪心・嘔吐（いわゆるつわり症状）は日本の妊婦の半数以上*に見られる症状です。現在、妊娠時の悪心・嘔吐に対する効能で承認された医薬品は日本国内には存在しません。

本剤は、ドキシラミンコハク酸塩とピリドキシン塩酸塩を有効成分とする経口の配合剤です。妊娠時の悪心・嘔吐を効能・効果として世界43か国で承認されており、米国では2016年、欧州では2023年にそれぞれ承認されています。日本国内では未承認であったため、厚生労働省は日本産科婦人科学会からの要請を受け、本剤を開発する企業を公募していました。本剤を日本市場へ導入することは、日本国内のドラッグロスの解消にも寄与するものです。

持田製薬の代表取締役専務取締役専務執行役員の榎潤一は次のように述べています。「Duchesnay 社と Bonjesta に関するライセンス契約を締結できましたことを大変うれしく思います。妊婦さんのつわり症状による負担を軽減し、妊娠期の女性がストレスを少なく働き、生活できる環境を整えることで、女性がより健康で活躍できる社会の実現に貢献してまいります。」

Duchesnay Pharmaceutical Group のバイスプレジデント、グローバルパートナーシップ&事業開発担当の Suzanne Paszkiewicz は次のように述べています。「本契約は、Duchesnay 社にとって国際的な事業拡大をさらに推進する重要な節目となります。人生のあらゆる段階における女性の健康を向上させるという共通の使命のもと、2030年までの製品上市の可能性を見据え、持田製薬とパートナーシップを結べることを誇りに思います。」

持田製薬と Duchesnay 社は、本剤を提供することにより、女性の QOL 向上に一層貢献していきます。

以 上

*日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会（編）。産婦人科診療ガイドライン 産科編 2023。

持田製薬について

持田製薬株式会社 (<https://www.mochida.co.jp>) は、1913 年の創業以来、独創的な医薬品の研究開発に取り組み、特色ある医薬品を医療の場に提供してまいりました。現在は、循環器、消化器、産婦人科、精神科の重点領域に注力するとともに、難治性疾患の治療剤、バイオ後続品を含む後発医薬品など、医療ニーズに応えた取り組みを行っています。持田製薬は、「女性の様々なライフステージのサポート」という製薬企業としての価値の提供に取り組んでおり、女性がより健康で活躍できる社会の実現に貢献したいと考えています。

Duchesnay について

Duchesnay Inc. (<https://duchesnay.com>) は、Duchesnay Pharmaceutical Group (DPG) のメンバーで、長年にわたり女性の健康に尽力してきたスペシャリティファーマです。これまで Duchesnay は、既存の医療・製薬分野において十分に取り組まれていなかった領域の補完や、妊娠期や授乳期において安全かつ有効に使用できる薬理学的な治療手段の開発に注力してきました。現在は、製品ポートフォリオを拡充し、人生のさまざまなステージにある女性とそのご家族の健康と生活の質のニーズを満たす、安全で効果的な治療選択肢を提供しています。世界中の女性が自身の状態に適した専門的な治療を受ける権利があるとの信念のもと、国際的に製品を開発しています。



<本件に関するお問い合わせ先>

持田製薬株式会社 経営企画部広報室 (TEL: 03-3225-6303)

Duchesnay Inc. Communications Department, DPG (TEL: +1(263)388-3141)